

黄変米のカビの研究者

串原 三宅市郎



1881年～1964年

明治十四年、串原村に生まれ、

明治三十二年に岩村尋常高等小
学校から東京の私立順天中学校第
五学年に編入学した。上京した市
郎はその後、第二高等学校、東京帝
国大学を卒業後、明治四十二年、
清国北京大学教授に招聘される。

日本へ帰国後は東京農業大学と
玉川大学に教授として同時に勤め
たが、農家出身の市郎の脳裏にはい
つも農村振興の思いがあり、進んで
農林省蚕業試験場、同米穀利用研
究所嘱託となり研究を重ねた。

僻地医療に功績

串原 後藤 甫



1901年～1987年

特に昭和十五年からの「米」に寄
生する黄変米菌の中毒学的研究
をはじめ、生活環境に関連の深い
「カビ」の毒物に着目して諸種の有
毒カビを発見した。そして、その
代謝産物を単離し、その科学的性
状および中毒的作用を明らかに
し、この分野の医学的重要性を初
めて立証するに至った。

戦後食料難で外国から大量に
輸入された米が黄変米と判明し、
配給が停止された。極めて短時間
に黄変米の高い毒性が解明された
ことは市郎の研究に負うところが
大きい。

この功績が認められ、第五十三
回日本学士院賞を受賞する。串原
ではこれを機に串原村名誉村民条
例が制定され、名誉村民となった。

大正十五年、現日本医科大学を
卒業後、昭和十三年、東京都で医
院を開業した。戦後、山間僻地の
医療の重要性と医師の使命と責任
を考え、郷里串原に帰り、生涯を
僻地医療に捧げた。
特に学校保健教育の推進のため
串原村立小・中学校、県立岩村高
等学校・明智商業高等学校の校医
として、児童生徒の健康管理と指
導に当たった。保健指導では、村に
自生する薬草を教材にし、その効
用や栽培方法、更には日常の食生

活や栄養指導にまで及び、山間の
自然条件を生かす地についての指
導であった。また村民の健康相談
や診療医療は丁寧で親身であった
から、皆から「先生、先生」と慕わ
れた。
伊勢湾台風の際は、河川の氾濫
や家屋の破壊の被害の中にあつて、
冷静な判断で伝染病の予防に努
め、感謝された。
交通事情が悪い当時、急病患者
が出れば夜間、豪雨の中も厭わず
往診したり、長雨の時も落石、崖
崩れの危険をも省みず駆けつけ、
治療に当たったことは、今も村民
の語り草である。
そうした数々の功績を称え県
医師会長・県知事から表彰を受
けた。昭和五十五年には勲五等
瑞宝章を受章。串原村名誉村民
である。

勅題詠進歌入選の歌人

上矢作町 五島 鹿之右衛門



1888年～1974年

激し、入選歌二首の石碑建立に至った。また、入選歌はその後も広く親しまれ、町内の家々や各所で掛け軸や額が見られるようになった。

勅題入選歌二首

『朝 空』

朝え飼う 小鳥のこぼす

粟の実も

影みなもてる 空のかがやき

『鳥』

東京に 学ぶわが子の

名を今も

九官鳥は ひたぶるに呼ぶ

これらの歌は後に『大船山房歌集』として出版されている。

若い頃より和歌に親しみ、大正十三年、遠山英二の門に入る。名古屋の中央歌壇『国の花』誌上を主たる発表の場とし、やがて同志と共に「仙友会」を作り、旺盛な作歌活動を続けた。昭和二十六年、敗戦後の復興の時期、平和と村の発展を期して詠んだ『朝空』が宮中歌会始勅題詠進歌に入選、昭和四十年には親子の情愛を詠んだ『鳥』が再入選した。全国的にも稀な二首入選の栄は、文学活動などには縁遠い風土の中、町民の心を強く刺

歌人鹿之右衛門は、一方では旧上村村長と初代上矢作町長を歴任し、昭和三十九年、藍綬褒章を、四十年には勲五等双光旭日章を受けた。文人、政治家として広く信頼を得ることとなった。

業界随一の表具師

上矢作町 中島 近



1916年～2009年

昭和五十三年、京都表具協同組合の理事長に就任し、「着きが良くて剥しやすい」アクリル系化学糊の開発に協力し、業界全体の技術の向上に大きく貢献した。また、中国やシンガポールなどへ視察団を派遣し、海外交流の道を開いた。

旧恵那郡下原田村字漆原峰の中島家に生まれる。昭和五年、十四歳の時、京都に出て京表具の老舗・中川静好堂に弟子入りし、主人中川珍懐のもとで日々修業を重ね腕を研いた。やがて、関係方面からその技能を高く認められ裏千家職方として活躍する中、京都大徳寺百枚の襖絵修復・中尊寺茶室・大阪城二の丸茶室伊勢神宮茶室・姫路城庭園茶室・京都迎賓館・松下幸之介別宅茶席等々その表具施工に輝く業績を重ねた。

一方で、息子・孫の三代に渡る技術の継承や、他府県の表具師の息を預かり、技術の伝授をするなど、後継者の指導育成にも尽力し、業界随一の表具師として高く高い評価を得るに至った。平成二年、卓越した技能者として労働大臣賞を、平成五年には日本の名工として紫綬褒章を受章、勲六等単光旭日章を受けた。近の故郷への思いは熱く、生家や集会場に自ら仕立てた掛け軸などを贈っている。

地域の誇り

恵那の先人三十人編集委員会委員名簿

小坂 清治 (委員長)

安藤 和文

宮崎 光雄

伊藤 利貞

鈴木 隆一

後藤 健二

鈴木 俊之

三宅 哲夫 (副委員長)

平出 恭二

あとがき

個人の生きがいに結び付いた地域のパワーの更なる向上を願って、恵那市の十三地域でそれぞれの地域に学び、地域をつくる活動が展開されています。その展開活動の一つの視点ともなればうれしい限りだと、委員九名はそれぞれの地域で聞く、読む、調べる、教えていただくなどの活動をしました。

しかし、四つの視点(選定に当たり参照)をもって約半年で四八〇字以内の文章にまとめることは、その内容事項の重点化と表現の問題に悩み続け、不安の連続でした。「地域の誇る人物物語」としての得ているかという悩みです。しかし、一生懸命まとめたことは事実です。

高齢の方から中学生まで読んでいただき、日々の話題の一つにしていただければありがたい限りです。

最後になりましたが、取材にご協力いただいた方々と、文書整理などにご協力をいただいた楯英夫氏、伊藤和男氏に感謝します。

地域の誇り

恵那の先人三十人編集委員会 委員長

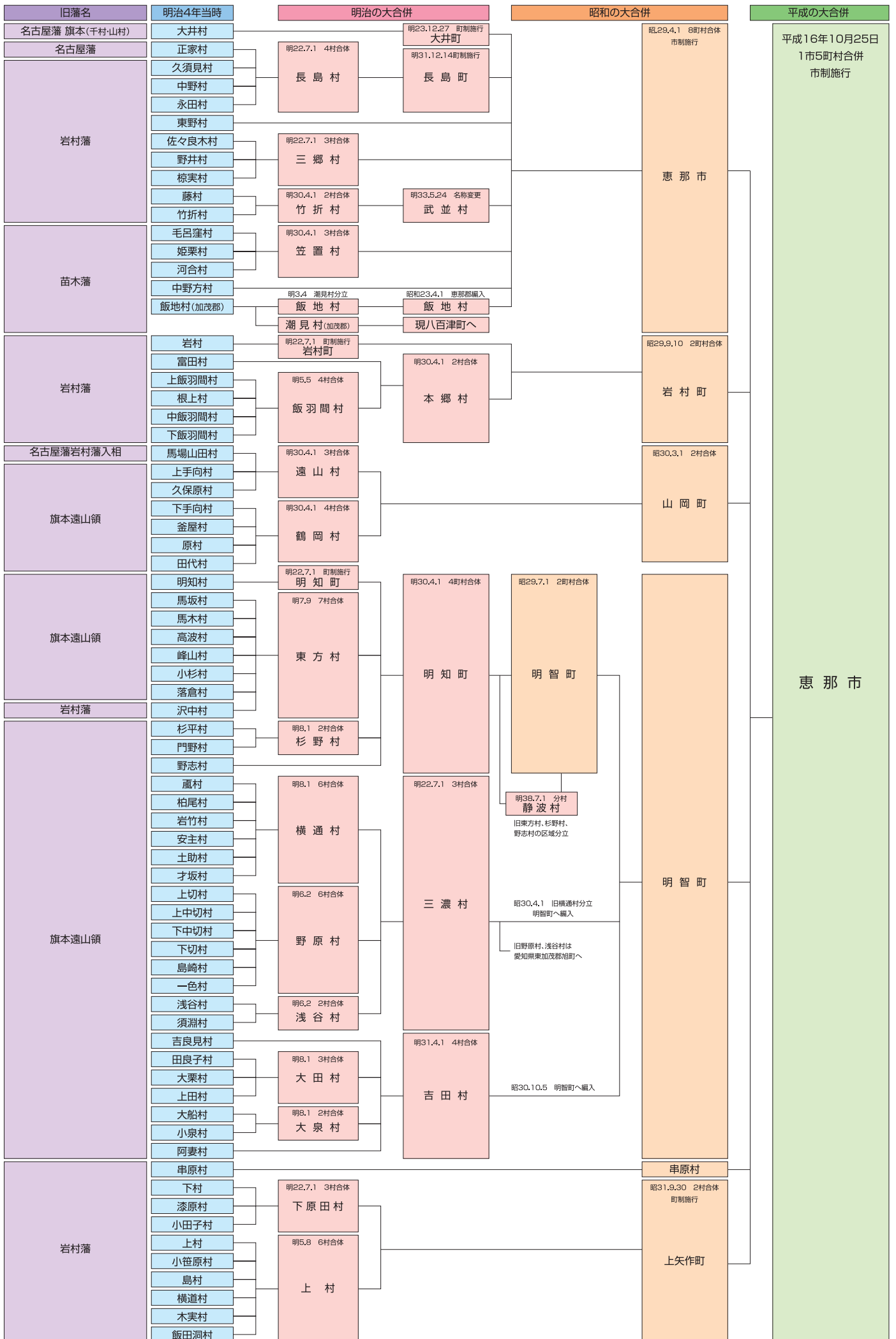
小坂 清治

参考図書等

加納熊吉翁	加納家		
田中守平顕徳碑文	恵那郡武並村		
田中守平顕徳碑三十周年記念誌	式典発起人		
飯野吉三郎と田中守平		歴史講座資料	
田中守平と太霊道	郷土資料室		
武並町史	町史編纂委員会		
心道の教祖熊崎健翁の人生史	一橋社会科学	下村 育世、石川 偉子	
みさとの昔ばなし	三郷郷土史研究会	三郷郷土史研究会	
百年の歩み	長島小学校管理委員会		
統恵那地域画人考	可知 収	可知 収	
恵那地域画人考	可知 収	可知 収	
恵那市史	恵那市教育委員会	市史編纂委員会	
灯を持つ乙女	岐阜県美術館	寄託	
裸婦 浦島図	岐阜県美術館	所蔵	
異界の海	三好企画	高階 絵里加	
岩村町史・岩村町歴史シリーズ	岐阜県岩村町役場	岩村町教育委員会	
濃飛人物史	濃飛人物史刊行会	岐阜県歴史教育研究会	
郷土に輝く先人	岐阜県	岐阜県総務部人事課	
岐阜の人物の生き方	岐阜県小学校社会科研究会	丸山 幸太郎	
言志四録		佐藤 一斎	
図書名等	発行者等	著者名等	

東濃の碑	東濃教育事務所学校教育課		
上矢作町史	恵那市教育委員会		
文部公報			
農民運動家としての三宅正二	新風社	飯田 洋	
三宅正二の生涯	恒文社	三宅正二追悼刊行会	
幾山河を越えて	恒文社	三宅 正二	
明智町誌	明智町役場		
豊臣町史	豊臣町史編纂委員会		
安藤ちえ功績調書			
飯地の歴史(3)		柘植 成実	
生きているむら	中野方町史刊行委員会	安江 赳夫	
山田大助先生頌徳銘文			
中野方小学校沿革誌	中野方振興会		
山本栄二顕徳碑文	恵那市教育委員会、笠置町振興会		
山本翁頌徳碑文	山本翁勲業彰会		
恵那郡ノ石器時代		山本 栄一	
山本誠之助の村づくり		小坂 清治	
山本家を偲ぶ	笠置町毛呂窪区		
笠置村誌	笠置村教育会		
加納熊吉顕徳碑文	藤区		
図書名等	発行者等	著者名等	

恵那市の沿革 藩政から現在まで



地域の誇り
恵那の先人
三十人

発行日 平成二十三年三月

編集 地域の誇り恵那の先人三十人編集委員会

発行者 恵那市

恵那市教育委員会(担当 社会教育課)